

本稿は、8月5日に行われた「第44回自治体労働者平和のつどい in 広島」での特別報告について、加筆・修正したものです。

## 岩手 反核平和の取り組み

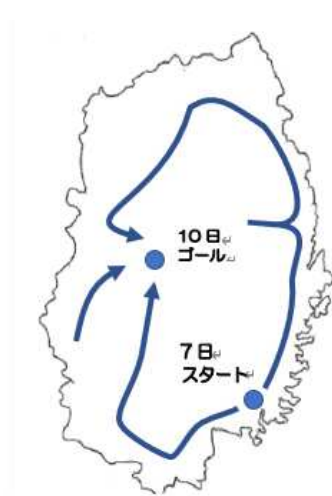
### 岩手自治労連

#### 春の訪れとともに、今年も反核平和が動き出す

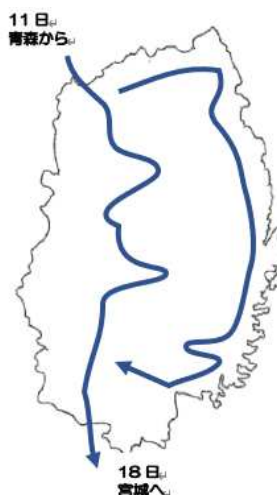
岩手自治労連（青年部）の2022年の反核平和運動は、3月に3・1ビキニデー、第37回反核平和マラソン「オリジナル T シャツ」のデザイン募集。4月に第37回反核平和マラソン「T シャツ」「ポスター」決定。

6月4日に第37回反核平和マラソンスタート（大船渡市）、10日にマラソンゴール（盛岡市）。11日には第37回反核平和が国民平和大行進岩手県入りし、行進に参加。18日に大行進を宮城県へ引継ぎしました。

8月3日に、原水爆禁止2022世界大会に向けて岩手県代表団が出発しました。



<反核平和マラソンコース>



<国民平和大行進コース>

岩手の6月は、2週にわたって平和の行動が県内を動き回る反核平和の思いを込めた「折り鶴」「色紙」を持って原水爆禁止世界大会へ参加しています。

#### 東日本大震災の年も走り続けた「県内一周反核平和マラソン」

県内一周反核平和マラソンは、国際平和年の1986年、「青年がもっと核兵器廃絶運動の先頭に」との思いではじめられました。毎年、6月の第1火曜日から金曜日までの4日間、核兵器廃絶、国家補償の精神に基づく被爆者援護法の制定、核利用の見直し、平和憲法の

遵守など、核兵器も戦争もない平和な日本ならびに世界をめざして開催。

東日本大震災が有った2011年も、地域を元気づけ「1日も早い住民本位の復興を」もアピールして走り続けたが、新型コロナが蔓延し始めた2020年は、沿道を走る事は行えず、原水爆禁止世界大会への折り鶴と色紙の取り組みにのみを実施。しかし、2021年には同年に国連で『核兵器禁止条約』が発効された事もあり、再開を決意。

今年は、世界的に反核平和の機運が高まりつつある中で、ロシアがウクライナに侵攻した事。また、その際に核兵器を脅しの道具として使った事等、私たちが足を止めるわけには行かないと、走る事を決め、実施しました。

### 放射線発見から100年たらずで!?

反核平和について私は、役場職員となって組合活動をするなかで機会があればヒロシマ・ナガサキに来てみたいと思っていました。

その理由は、ドイツのヴェルヘイム・レントゲンが1895年の高電圧の実験の際に、金

属板さえも通り抜ける未知の光線の存在に気付き、ハーンとマイトナーが核分裂を発見したのが1938年(下年表を参照)。それから100年たらずで放射性物質のもつ莫大なエネルギーを扱おうとしている事に、「早すぎる!!」と感じ、それを兵器として利用された唯一の国に住む一人として、世界大会に参加し核兵器禁止を呼びかけることに大きな意義を感じたからです。

一方で、私は、原子力という技術は否定できません。禁止すべきは兵器への転用であり、原子力発電などはエネルギー問題を解決できる一つの手段だと考えています。

しかしながら、原子力発電が引き起こす大きい悲劇。また、諸課題についても、世界大会への参加を通じて、理解を深めていきたい。

1895年	レントゲン	「未知の光線」の発見
1896年	ベクレル	ウラン鉱石から放射線を発見
1898年	キュリー夫妻	放射性物質の発見、1903年ノーベル賞受賞
1898年	ラザフォード	$\alpha$ 線、 $\beta$ 線の発見
1900年	ヴィラール	$\gamma$ 線の発見
1932年	チャドウィック	中性子の発見
1938年	ハーン、マイトナー	核分裂の発見

1945年 広島・長崎に、原爆投下

1954年 ビキニ環礁にて水爆実験

2021年 『核兵器禁止条約』発効

2022年